



新本館棟の完成と将来への思い

雲南市長 速水雄一

雲南市立病院は昭和23年に雲南共存病院として開院し、歴代の管理者並びに院長のたゆまない努力により様々な困難を乗り越え、平成23年4月に公立雲南総合病院から雲南市立病院となりました。この度の病院建設においては平成30年3月に新本館棟が開院し、令和元年9月末に最後となっていた第3駐車場整備工事で全てが終わりました。平成24年5月の第一回病院建設検討委員会の開催から約7年におよぶ歳月をかけた、内科・外科・整形外科等を含む15の診療科と一般病棟155床、地域包括ケア病棟48床、回復リハビリテーション病棟30床、医療療養病棟48床の合計281床からなる新生雲南市立病院のグランドオープンを令和元年10月1日に迎えることになりました。

思い返せば、34名であった常勤医師体制が平成22年には17名体制となるなど、経営的にも非常に厳しい時期がありました。雲南圏域の中核病院としての使命、市民の皆様への安心・安全な医療の提供の実現のため、厳しい時にこそ新しい病院を建設するといった大きな目標を掲げ今日まで取り組んでまいりました。ここにこの思いを成し遂げることができ、その感慨もひとしおのがあります。これも偏に当院の運営に理解を頂き支えていただいた市民の皆様や病院事業管理者を始めとする病院職員の献身的な働き、並びに県ご当局や医師会および関係諸団体の関係者の皆様のご協力のたまものと感謝するところでございます。

さて、雲南市は人口減少、少子高齢化、行政課題の多様化、財政の硬直化といった課題に対応するために平成16年11月に6町村が合併し誕生しました。合併後「課題先進地」から「課題解決先進地」へを基本理念に、「安心・安全」「活力と賑わい」「健康長寿・生涯現役」の実現を目指し、多彩な地域づくり組織や市民と行政の協働により失敗を恐れない挑戦を続けてまいりました。その挑戦の一つである「支えあい健やかに暮らせるまち」の子育てしやすい環境と医療体制の充実を図る取組の中心的な施設、拠点となるのが雲南市立病院であると考えております。

その中心的役割を發揮するためにも設備面の充実に加え、医師をはじめとする医療スタッフの人材が必要不可欠であり、医師、看護師を始めとする地域医療を担う医療職を育成する取組を行ってきました。引続き平成21年4月に開設した「地域医療人育成センター」を中心に独自の研修プログラムによる研修医の指導、医学部生、看護学生の研修、中学生や高校生等の職場体験セミナーなどを実施し、医療スタッフの定着化と将来にわたっての医師をはじめとする医療スタッフの確保に努めてまいります。

前述の取組とともに、雲南市立病院は地域の公的な中核病院として民間では採算性確保の困難な医療を担い、小児・周産期医療、二次救急医療の機能を維持し必要とされる設備の充実を図ることにより、地域住民の健康と生命を守るための安心・安全な医療の提供を実践する役割りを果たさなければなりません。そのためにも今回のグランドオープン後も現行の診療科、病棟機能および病床数を維持するとともに、その機能の充実を図ることを目指してまいります。

開設者として一つの節目を迎えた雲南市立病院への思いと今後の取組について申し上げますが、今後の雲南圏域における地域医療を想う時、これからの10年が更に大事な時期になるものと思います。財務基盤の健全化を保ちつつ当院の基本理念である「地域に親しまれ、信頼され、愛される病院」を目指し、雲南圏域の中核病院としての役割を担ってまいりますので、より一層の市民の皆様のご支援と関係諸団体等の皆様からの変わらぬご指導、ご鞭撻を今後もお願い申し上げます。

結びに、新本館棟の建設並びにグランドオープンに向けての取組にご尽力賜りました関係各位に深く感謝を申し上げます。発刊の言葉といたします。